

学生の本学図書館利用状況調査 —情報活用能力向上のための図書館活用に向けて—

Survey of Mejiro University Library usage —Improving information utilization abilities—

古山 真里奈
(Marina FURUYAMA)

Abstract:

Directly supporting student's studies and actively participating in classes are two of the most important roles of university libraries. This paper examines the relation between the Mejiro Gakuen Educational Foundation Library (Mejiro University Library) and Mejiro University classes. Results from web questionnaires administered to students and the inferences drawn on observing students at the library indicated that, at present, Mejiro University Library is not sufficiently active in participating in classes. Furthermore, the exam's results showed that Mejiro University students are difficult to set a theme. Thus, the present paper suggests that university classes need to use the library more effectively to improve their information utilization abilities.

キーワード : 大学図書館、情報活用能力、情報教育、アンケート調査

Keywords : University library, Information utilization abilities, Information education, Web questionnaires

1. はじめに

文部科学省がまとめた「大学図書館の整備について」の中で、大学図書館に求められる機能・役割として教育活動への直接の関与があげられている¹⁾。具体的には、中学校・高等学校ではコンピュータの基礎的な知識、技能の育成を図ることとしているが、大学においてはさらに大学図書館の利用方法を含めて、情報を探索し、分析・評価し、発信するスキルを一層高める情報リテラシー教育が必要であるとされている。また、カリキュラムの開発や実施を教員と協同して行なうこと等が提言されている。

授業における大学図書館利用に関する先行研究では、図書館利用教育の前後に試験を行なう

ことでそれぞれの取り組みに成果があったこと²⁾や、図書館利用と学生の学習成果の間に関連性があること³⁾等が検証されている。しかし、大学によって図書館と授業の連携状況や所属学生の学習習慣の違いが存在することから、一概に他大学での取り組み内容を本学にそのまま取り入れることで同様の結果が得られることや、効果的な情報教育を行なうことができるとは考えにくい。

本稿では、学生へのアンケート調査や本学図書館での学生の行動調査等の結果をもとに、現在本学図書館が学生にとってどのような役割を担っているかについて考察する。さらに、情報を収集・分析・発信する力を養うことを目的と

している基礎教育科目である「情報活用演習」をとおして、本学の学生に合わせた図書館利用を促進するための方法について検討する。

なお、本学には附属図書館（室）が新宿キャンパス、岩槻キャンパス、国立埼玉病院キャンパスに合計3館（室）ある。本稿では特に断りの無い限り新宿キャンパス図書館（新宿図書館）について言及する。

2. 本学図書館・学生の現状

(1) 授業での図書館利用状況

近年、図書館での授業の開発や実施を教員と協同して行なうこと等が提言されているが、本学図書館は授業でどのように利用されているのだろうか。授業シラバスから概観する。

平成27年度本学授業シラバス本文中に「図書館」と記載のある学部・短大の授業数は112件あり⁴⁾、シラバス全体の3.8%であった。その内容によって①「特色あり」②「ガイダンス」③「情報科目」④「備考程度」の4つに分類した（図1）。

①「特色あり」は図書館を授業（情報科目を除く）内で利用する等の特色が見られる授業（例えば「【図書館実習】書誌情報、書籍全体を眺めて読書方略を立てる」）、②「ガイダンス」は授業内で図書館の利用ガイダンスを実施する授業（主に図書館員からの説明）、③「情報科目」は主に基礎教育科目である情報科目の共通

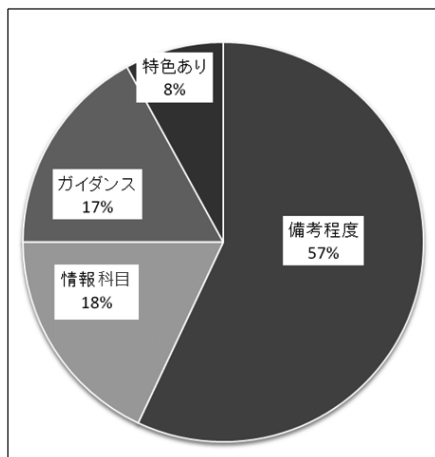


図1 シラバスで言及される「図書館」の内容

シラバスで「図書館を利用した文献検索」の記述があるため、まとめて分類した。④「備考程度」はシラバス中に「資料を図書館で探し自習するように」等の備考程度の記述があるものを分類した。その結果、シラバス中に「図書館」と記載のある授業のうち57%は「備考程度」の記述に留まっていることがわかった。このことから、シラバス中に「図書館」と記載があっても、必ずしも授業中に図書館を使用することや連携を取っているとは限らないことが分かる。また、授業内で図書館を利用する「特色あり」は8%程度であり、次いで「ガイダンス」が17%であった。

本学1年生の基礎教育科目である「情報活用演習Ⅰ」の履修学生1,101人にwebアンケートを実施した⁵⁾結果、「本学図書館を利用した主なきっかけは何ですか。近いものを選んでください」という設問に対し、「授業等で図書館に行くよう指示された時だけ利用した」「どちらかと言えば授業等で図書館に行くよう指示された時だけ利用した」と回答した新宿キャンパスの学生は合計約56%であった。一方、短期大学と岩槻キャンパスの学生が選択した回答で最も多かったのは「授業内で指示されなかったが自発的に利用した」でそれぞれ短期大学が32.4%、岩槻キャンパスが51.4%であった。（図2）

「どの授業で図書館へ行くよう指示されましたか」という設問に対しては、短期大学を含む新宿キャンパスの回答者のうち70%から80%が基礎教育科目である「ベーシックセミナー」で図書館へ行くよう指示されたと回答している（図3）。

これは平成27年度から新宿キャンパスで「ベーシックセミナー」のほぼ全ての授業内で図書館ガイダンスを実施しているためと考えられる。なお、このガイダンスの内容は図書館の利用方法や館内の使用ルールの解説が主となっている⁶⁾。一方、岩槻キャンパスの学生は、43%の学生が「どの授業でも指示されていない」と回答し、次いで30%の学生が「情報活用演習以外の基礎科目」で図書館へ行くよう指示されたと回答している。

授業との関わりについて、新宿図書館では希

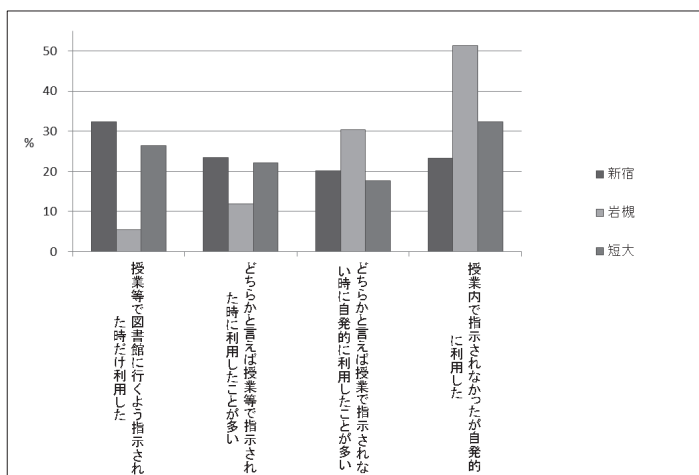


図2 本学図書館を利用した主なきっかけは何ですか。近いものを選んでください。

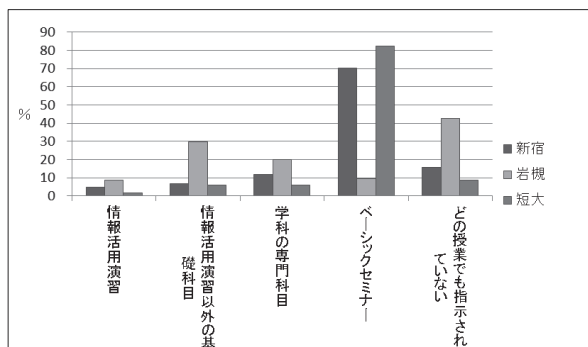


図3 どの授業で図書館へ行くよう指示されましたか

望のあるゼミナール向けにも論文検索の方法やILL（図書館間相互貸借）の請求方法等のガイダンスを年間15回程度行なっている他、学芸員課程において貴重書の見学等を行なうことがあるという⁷⁾。しかし現状では、前述したような授業の開発や実施を教員と協同して行なう取り組みが積極的に行なわれているとはいえない。

(2) アンケートによる学生の行動調査

前章で現在の本学図書館と授業との状況について述べたが、学生にとっての本学図書館はどのような役割を担っていると考えられるだろうか。

前述したwebによるアンケート調査⁸⁾で新宿キャンパスの1年生（短期大学生を含む）に

択一選択で本学図書館に行く主な目的を尋ねたところ、「自習」が最も多く27.1%となった（図4）。次いで多かったのは「調べもの」が20.9%、「本を借りる」が15.8%、「パソコン利用」が11.4%、「その他」が10.1%、「読書」が4.5%であった。なお、今後同様の調査を2年生以上にも実施することを予定している。その結果をもとに、1年生と2年生以上で図書館の利用法に変化があるのか等について検討する計画である。予備調査として平成27年10月に「情報活用演習II」履修学生の2年生51人に実施した記述式アンケートの結果では、「レポート課題のための資料を探す」といった授業課題のための利用が目立ち（図5）、「休憩」や「パソコン利用」も同じく10%程度である等、1年生の主な利用方法と共通点が見られた。

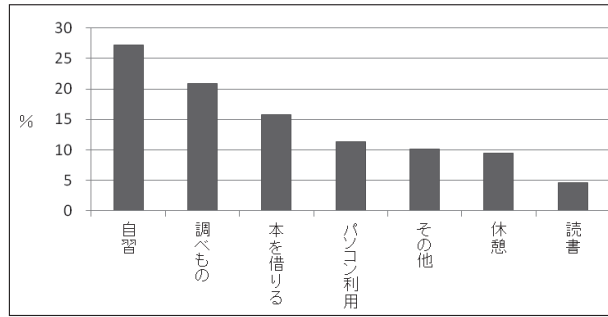


図4 新宿図書館の主な利用目的（1年生）

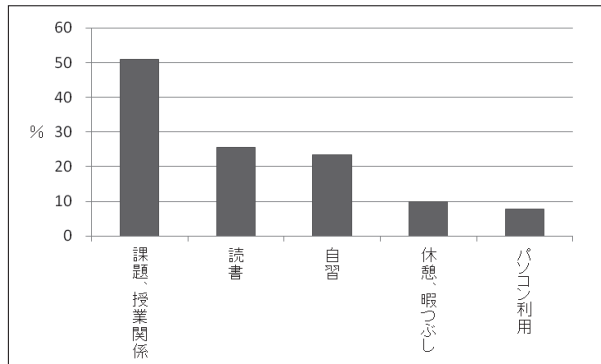


図5 新宿図書館の主な利用目的（2年生）

(3) 図書館内での学生の行動調査

新宿図書館は通常の授業期間で1日400人程度の利用者数であるのに対し、試験期間中には1日700人程度に増加するように⁹⁾、利用者数は時期によって大きく変動している。

前述したwebアンケートの結果から分かるように、学生の本学図書館の利用目的は多岐に

渡る。本学図書館が学生にとってどのような役割を担っているかについて知る手掛かりとして、実際に学生が本学図書館のどこで、どのように過ごしているかを調査した。著者は平成27年度秋学期から平成28年度春学期¹⁰⁾にかけて、目視により計61回調査した。場所別の利用者の合計人数は図6¹¹⁾のとおりである。

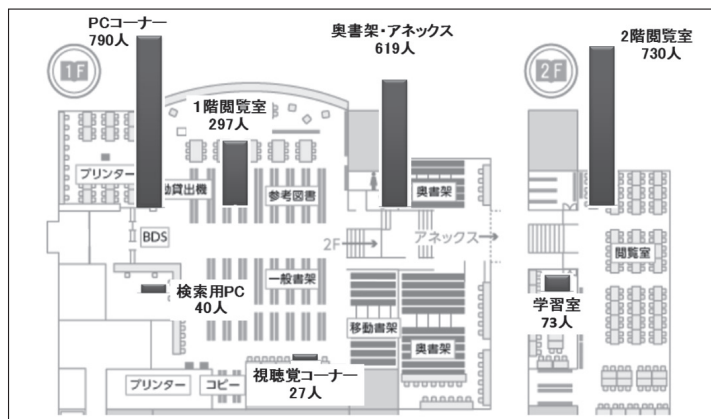


図6 新宿図書館の利用者合計人数（場所別）

調査中、最も利用されていた場所は館内入口付近のPCコーナー（正式名称は「閲覧室」だが、本稿では混乱を避けるためPCコーナーと表記する）であった。現在、館内でのPC利用はPCコーナーのみで許可されているため¹²⁾、PCコーナーの利用者のうち82.8%が備え付けのデスクトップPCや貸出用ノートPCを利用していた。本学には情報教育ラウンジやメディアプラザ等の、学生が自由にPCを利用できる場所があるが、レポート課題提出の時期には満席に近い状態となる場合がある。そのような場合は特に、PCを使用したい学生の図書館利用が増加するものと考えられる。次に利用者が多かった場所は2階閲覧室である。ここでは利用者の57.7%が勉強をしており、33.2%が睡眠等の休憩をとっていた。

学生の行動を「勉強」「PC」「休憩」「読書」「ブラウジング（本稿では着席せずに書架を眺めている状態とする）」「その他」に大別し集計した、調査一回あたりの平均人数の結果が図7である。

試験期間には勉強している人数が多くなるが、試験期間外では勉強、PC、休憩での利用者が比較的多く、人数には大きな差は見られなかった。学生の行動で特徴的であるのは、学習室の利用者の59%が複数人のグループで何かしらの作業を行っていたことである。学生が自ら学ぶ学習の重要性が再認識されている現在、図書館による積極的な学習支援の一環として、多様な学習スタイルを可能にする「場」を提供するラーニング・コモンズ整備の動きも広

がっている¹³⁾が、本学図書館にはまだラーニング・コモンズは設置されていない。しかし学習室にはドアがあるため、他の閲覧室より密閉性が高く、多少グループで声を出しても周りに迷惑をかけにくいという理由から、グループで協同作業等を行なう場合は学習室をいわばラーニング・コモンズのように利用していると考えられる。

3. 本学学生に合わせた図書館の利用促進に向けて

前述した調査から、本学学生は授業で図書館に行くように指示された際等、受動的に図書館を利用していることが比較的多い状況や、学生にとって図書館は自習の場所やPCを使用できる場所といった役割を担っている現状があることが分かった。

本学の学生に合わせた図書館利用を促進するための方法を検討するにあたり、学生の学習時のどのような際に支援が必要であるかを具体的に探るため、平成27年度秋学期の「情報活用演習Ⅱ」履修者51人（初回授業欠席者）に対し、以下の課題を出題した。

(1) 設問

【問1】自分の興味のある事柄について調べたいテーマ（○○の○○について）を一つ自由に考えなさい。

【問2】問1で考えたテーマについて有益な情報が記載されているような本をインターネット検索して探し、検索したサイト名と本の情報

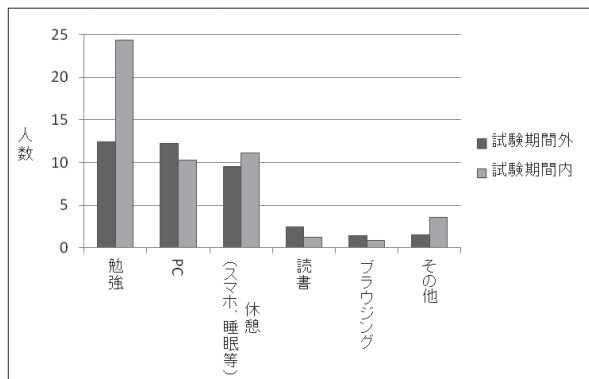


図7 本学図書館での学生の行動（平均）

(著者名、タイトル、出版者、出版年)を可能な限り多く記載しなさい。

【問3】目白大学図書館に行き、棚を見て、問1で考えたテーマについて有益な情報が記載されているような資料を探し、問2で挙げた資料以外の本の情報(著者名、タイトル、出版者、出版年)を可能な限り多く挙げなさい。また、テーマに関する部分を書いてある章やページ番号も記載すること。

【問4(任意)】図書館で本を調べた感想を記載すること。

(2) 結果

この課題の結果は図8のようになった。問2では50.9%の学生が、インターネット検索によって自ら設定したテーマについて書かれている本について5から9冊の本を探し出すことができた。一方で問3では、約80%の学生が本学図書館で0から4冊を探すことができたと回答した。なお、図書館で1冊も探すことができなかったと回答した学生は、17.6%であった。

(3) 考察

この課題の結果がすべての本学学生の傾向に当てはまるとはいえないが、前述のとおり「本学図書館でテーマに関連する資料を1冊も探すことができなかった」と回答した学生が複数いることから、学生自らテーマ(問い)を設定する力が不足している学生が一定数存在すると考えられる。また、そのように回答した学生の問2(インターネット検索)の結果では、87%

の学生が本のタイトルに自分が設定したテーマの文言そのものが入っている資料を列挙していることから、「自分の設定したテーマの文言が本のタイトルに入っていない資料は無関係である」と考える学生がいると考えられる。これは、情報の収集・分析について、より具体的に事例を挙げて説明する等の支援が必要であるといえる。これらの結果から、授業で図書館利用を促すにあたり、「○○について調べ考察せよ」といったような大まかな指示だけでは、十分に情報を広く深く収集することは困難である可能性がある。このような学生に合わせて授業を展開することや、図書館での情報教育の必要があると考えられる。

4. おわりに

大学での教育が、授業を受けるだけでなく、より能動的で自発的な学習が重視されるようになってきている。授業で習ったことの復習や予習、さらに発展して物事を調べ、理解を深めるために図書館で自学自習を行なうことは有効であり、これによって培われる力は、社会に出てからの問題解決能力に繋がると考えられる。

今回、本学シラバスの内容や学生へのアンケート調査等の分析から、現在授業と図書館が積極的に連携しているとはいえない状況であることを述べた。また、本学図書館での学生の行動調査等の結果から、本学図書館を利用する主なきっかけは、授業で指示される等の受動的な利用が多いと考えられるということが判明した。現在、学生にとって本学図書館は主に自習や

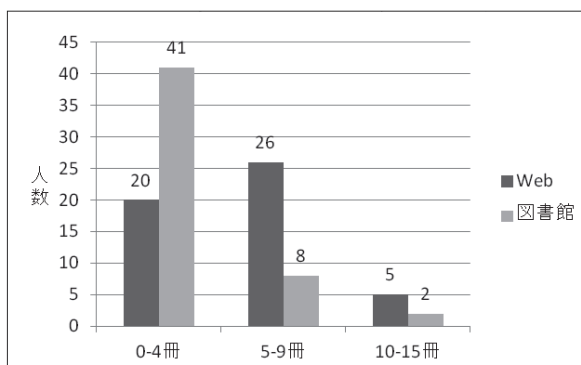


図8 学生が見つけた冊数の比較

PC利用の場として利用されているが、学習室はグループ学習をする一部学生にとってはラーニング・コモンズのような役割を担っていることが考えられる。今後、本学図書館でも学生同士が学び合う場としてのラーニング・コモンズの整備が期待される。基礎教育科目である「情報活用演習Ⅱ」での課題をとおして、自ら問いを立てることや情報収集が難しい学生に合わせた利用の支援が求められることが分かった。入館者数や滞在時間、貸出冊数等の統計データだけでは見えにくい、本学学生の行動や状況をより踏まえた上で、授業と図書館との連携方法を探ることが今後の課題である。

謝辞：本稿執筆のためにアンケートやインタビューにご協力いただいた学生や図書館関係者の方々に深謝いたします。

【引用文献／引用 URL／注釈】

- 1) 文部科学省科学技術・学術審議会「大学図書館の整備について（審議のまとめ）—変革する大学にあって求められる大学図書館像—」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1301607.htm
(平成28年9月13日最終確認)
- 2) 庄ゆかり、大学1年生の文献情報リテラシー

- 能力と図書館による情報リテラシー授業の評価、「大学図書館研究」、**92**巻、pp.27-35（2011）
- 3) 戸田あきら、学生の図書館利用と学習効果—大学図書館におけるアウトカム評価に関する研究—、「日本図書館情報学会誌」、**53**巻、pp.17-34（2007）
 - 4) シラバス本文中で「図書館の下に集合すること」等の学生への指示や授業の内容と直接は無関係と考えられるものは除いて集計した。
 - 5) 平成28年7月に「情報活用演習Ⅰ」履修者1,101人を対象にwebアンケートを実施した。回答者数は新宿キャンパス813人、岩槻キャンパス220人、短期大学68人であった。
 - 6) 平成27年9月24日に新宿キャンパス図書館スタッフへ聞き取りアンケートを行なった。
 - 7) 上記 6) と同じ
 - 8) 上記 5) と同じ
 - 9) 上記 6) と同じ
 - 10) 平成28年1月6日（水）から平成28年6月7日（火）の原則平日2，4，6限に図書館を訪れ、目視による調査を合計61回行なった。
 - 11) 目白大学新宿図書館フロアガイド
<https://www2.mejiro.ac.jp/library/shinjyuku/floor.html>（平成28年10月1日最終確認）
 - 12) 目白大学新宿図書館利用案内
<https://www2.mejiro.ac.jp/library/shinjyuku/annai.html#14>（平成28年10月1日最終確認）
 - 13) 上記（1）と同じ

